

2013「植村直己冒険賞」受賞者が決まる

厳冬カナダに挑み続け19年 2万2千kmを踏破

たなかかんや
田中幹也さん



▲カナダ中央平原を縦走する田中幹也さん(撮影:田中幹也)

3月18日、植村直己さんの母校の明治大学紫紺館(東京都千代田区)で、2013「植村直己冒険賞」受賞者発表の会見を行いました。今回は、2013年に日本人が挑んだ213件の冒険行の中から、厳冬季のカナダ中央平原南部200キロメートルを山スキーで踏破した田中幹也さん(48歳、東京都在住)を選びました。

田中さんは、人が訪れない厳冬季カナダの氷点下40度を下回る過酷な環境に身を置き、人力のみでどこまで踏破できるかなど、自分の可能性を限界まで出し尽くすことをテーマに、あえて過酷さを強いる冒険をしています。冬のカナダに魅せられ、1995年から毎冬のようにカナダを訪れ、人知れず黙々と挑戦を続け、19年間での踏破距離は2万2千キロメートルに達しました。今回の選考は冒険の結果より、その過程が評価された受賞です。

東京での受賞者発表会見の様子は、植村直己さんの母校の府中小学校(日高町野々庄)にも中継されました。田中さんは「冒険の結果よりも、その過程を評価していただいたことをうれしく思います。挑戦の過程で全力が出せたか、出せなかったを重視し、数値ではなく達成感を求めて、これからも冒険を続けていきます」と喜びの言葉を述べました。さらに、子どもたちに「何か興味があれば、結果を考えず取りあえずやってみて」とエールを送りました。

なお、本賞の授賞式は、6月7日(土)に日高文化体育館(日高町祢布)で行います。冒険賞の授与のほか、田中さんの講演も予定していますので、皆さん、楽しみにお待ちください。

《問合せ》植村直己冒険館 ☎44-1515



▲2013年2月 凍傷で頬が腫れあがり右目が見えなくなる(撮影:田中幹也)



▲東京会場の発表の様子を見守る府中小学校6年生の児童と関係者ら



▲「冒険賞」を受賞し、喜びを語る受賞者の田中さん(中央)

過去19年(1995年～2013年)のカナダ冒険記録

| 年 | エリア | 手段 | 距離(km) |
|------|-------------|------|--------|
| 1995 | 北部ノースウェスト準州 | 自転車 | 8000 |
| 1996 | イエローナイフ雪上生活 | 自転車 | 3000 |
| | ロッキー山脈 | 徒歩 | 1500 |
| | ロッキー山脈 | 自転車 | 1500 |
| 1998 | ロッキー山脈 | 山スキー | 500 |
| 1999 | ロッキー山脈 | 山スキー | 800 |
| 2001 | 東部ラブラドル半島 | 自転車 | 1200 |
| | セルカーク山脈 | 自転車 | 20 |
| 2002 | ロッキー山脈南部 | 山スキー | 1200 |
| 2003 | ロッキー山脈 | 山スキー | 200 |
| 2005 | ロッキー山脈 | 山スキー | 200 |
| 2006 | 中央平原ウイニペグ湖 | 山スキー | 200 |
| 2007 | 中央平原ウイニペグ湖 | 山スキー | 400 |
| 2008 | 中央平原南部 | 自転車 | 1200 |
| 2009 | 中央平原北部 | 自転車 | 900 |
| 2010 | 中央平原北部 | 自転車 | 900 |
| 2011 | 中央平原ウイニペグ湖 | 山スキー | 100 |
| 2013 | 中央平原ウイニペグ湖 | 山スキー | 200 |

冬のカナダに魅せられて19年

田中さんが初めて冬のカナダを訪れたのは1995年。以来、毎冬のように訪れ、人力(スキーや徒歩、自転車)で踏破した距離は2万2千キロメートルに達しました。冬のカナダ中央平原は、大きな湖も全面凍りつき、変化のない平坦な地形が何百キロメートルも続きます。とにかく寒く、旅人がめったに入らなない雄大な手つかずの

自然が残るところです。気温はマイナス40度を超え、台風並みの強い北風が吹き荒れます。その中での歩行は、呼吸困難、低体温症や凍傷の危険と常に隣り合わせです。田中さんは、そんな冬のカナダに二つの魅力を感じています。

一 厳しい自然の中で自己と闘うことができる喜び。命と向き合い、緊張感や恐怖感が、ないまぜになって熱い興奮を覚えること。厳しい



▲2008年1月 カナダ中央平原を自転車を押して歩く(撮影:田中幹也)

い自然の状況下でいかに生き延びるか、その試行錯誤が「今自分は生きている」手応えを感じる。

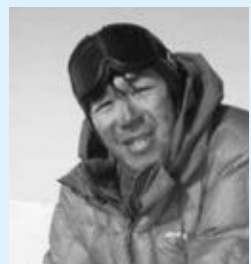
二 旅の途中、極北の地に住むホスピタリティ(もてなしの心)あふれる人たちとの触れ合い。旅人が少ない地ほど人々が純粹である。そんな人たちが大好き

終着点は自分の限界

2013年2月、田中さんは歩き始めて11日目の朝に「引き返そう」と直感的に判断しました。立っているのが困難なほどの強風、凍傷で腫れあがった頬は徐々に視界を妨げ、翌日にはとうとう右目

田中幹也さん
プロフィール

冒険家
1965年生まれ
東京都在住



中学生のときに単独で南アルプス全山縦走したのをきっかけに山の世界へ。1986～89年にかけて谷川岳-ノ倉沢、黒部・奥鐘山西壁、甲斐駒ヶ岳などの岩壁200ルートに登攀。冬季初登10ルートを含む多くの記録を残す。海外では、グランド・ジョラス北壁(フランス)など。

1990年から水平方向の冒険に方向転換する。タイ山岳地帯やオーストラリアを自転車横断。カナダへは1995年から18回、実質60カ月を費やす。冬になると自身に過酷なテーマを課してカナダを訪れている。

が見えなくなりました。わずかに見える左目を頼りに、そこから一番近い町になんとかたどり着きました。

2013年、厳冬期カナダの冒険はここで終わりました。期間2週間、踏破距離200キロメートルと数値的には少々物足りませんでしたが、故障だらけの身体で全力を出し切れたためか、悔いは残らなかつたようです。田中さんにとってのゴールは「一区切りついたかな」と感じたところ。そこに至るまでの、過程と試行錯誤が自身の終着点をつくり上げます。「どこまでできるかやってみ

よう」「自分の限界を見てみたい」をテーマに、これからも自分自身に妥協しない冒険を続けます。



▲2013年2月 カナダ中央平原(撮影:田中幹也)